



**JPN Class**

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語  
一年

十一月  
第③週



# 学習を始める前に

## ①必ず用意してください

### ・ノート

(学習しやすいように、漢字のノートと国語のノートを分けるなど工夫をすること。)

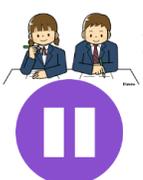
### ・筆記用具 (赤ペンも用意すること。)

## ②注意

・大事だと思うところはノートに書いてください。

・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後の**お知らせ**を見てください。

・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示に従ってください。



・必要があるときは、ビデオを止めたり、もう一度ビデオを見たりするなど、それぞれ工夫をください。

## 先週の宿題から

### 1. 音読

「いろは歌」 「蓬萊の玉の枝」を読みましよう。

2. 「古典の言葉」の説明をもう一度読み、復習をしましよう。

### 3. 問題をしましよう。

次の言葉の意味を書きましよう。

〔意味が変化した言葉〕

・ うつくし ↓ かわいらしい・いとしい

〔古典語だけに使われる言葉〕

・ あまた ↓ 数量の多いさま・たくさん

・ いと ↓ たいへん・あまりに・とても

# いろは歌

いろは歌は、四十七文字の仮名を一回ずつ使って作られている。

現存する最古の「いろは歌」は、一〇七九年に写された「金光明最（こんこうみょうさい）勝王経音義（しょうおうききょうおんぎ）」に記されたものですが、作者は不明です。当時流行した七音・五音を四回くり返す。「今様（いまよう）」という歌謡形式になっています。仮名を学ぶ手本や、物の順序を示すものとして使われました。

仮名のみの原文や、漢字と濁点をあてた歌を読んで、古文の言葉の調子に慣れましょう。

## 《漢字と濁点を当てた歌》

いろはにほへど  
① 色はにほへど（オ）（エ） 色は美しく照り映えても

ちりぬるを  
散りぬるを（花は） 散ってしまうものである

わかよたれぞ  
我が世たれぞ わたしたちのこの世のだけれが

つねならむ  
常ならむ（シ） 永久に変わらないことがあるのか

うみのおくやま  
② 有為の奥山（キョウ） いろいろなことがある（人生の）深い山を

けふこえて  
今日超えて（ケ） 今日も超えて（いくのだが）

あさきゆめみし  
浅き夢見じ 浅い夢など見ることはしない

急ひもせず  
酔いもせず（エ）（イ） 心をまどわされもしない

①あとに「散る」とあるので、この「色」は花の色を指す。「にほう」は美しく照り映えるの意。  
②「有為」は常に一定ではないこと。無常であるこの世の中を、超えにくい深い山にたとえた。

蓬菜の玉の枝ほうさい — 「竹取物語」たけとり から —

蓬菜の玉の枝

根が銀、茎くきが金、実しんが真珠じゆでできているといわれる木の枝。蓬菜は、中国の古い伝説で東海にあるという理想郷。

今は昔、竹取の翁おきなといふもの(ウ)ありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづ(ズ)のことに使(イ)ひけり。名をば、さぬきのみやつこと(シ)なむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋(シ)ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしう(シユウ)てゐたり(イ)。

今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。

(ある日のこと、)その竹林の中に、根元に光る竹が一本あった。不思議に思っ  
て近寄って見ると、筒の中  
が光っている。それを見る  
と、(背丈)三寸ほどの人  
が、まことにかわいらしい  
様子で座っていた。

《言葉の意味》

三寸さんすんごく小さいことを表す。一寸は、約三センチメートル

《新しい漢字》

筒つつ



これは、「竹取物語」の冒頭の部分である。このあと、物語は次のように続く。

子供を授かったと喜んだ翁は、その子を籠かごの中に入れて大切に育てた。子供は、すくすくと成長して、わずか三か月ばかりで一人前の娘になった。その姿は輝くばかりに美しく、辺りに光が満ちるようであつたから、娘を「なよ竹のかぐや姫」と名づけた。

美しいかぐや姫のうわさが広まると、多くの男たちが、ぜひ結婚したいと集まってきた。かぐや姫は、なかでも熱心な五人の貴公子の求婚を断りきれず、望みの品を持参した人と結婚すると言って、一人ずつに難題を出した。かぐや姫の望みの品は、いずれも入手至難のものばかりであつたが、五人の求婚者は、それでも姫との結婚をあきらめきれず、それぞれに知恵や富の力で難題にいどむのであつた。

その一人、くらもちの皇子みこは、蓬莱の玉の枝を探しに行く人と人々に告げて、いったん船出するが、すぐ引き返し、かねての計画どおり、人目につかぬ家に閉じこもつた。それから三年間、玉作りの匠たくみたちと寝食を共にして、にせの玉の枝を作らせた皇子は、今船を下りたばかりというふうをよそおつて、翁の家を訪れる。そして、架空の冒険談をまことしやかに物語る。

次の一節は、皇子が、その冒険談のうち、多難な航海の末にようやくのことで探し当てたという、蓬莱山の様子を語る部分である。



## 《言葉の意味》

匠 大工・彫刻師・細工師などの職人。

## 《新しい漢字》

娘 むすめ かぐや姫 ひめ

結婚 コン



蓬莱の枝を持参したくらもちの皇子

これやわが求むる山ならむと思ひて、  
さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐ  
りをさしめぐらして、二、三日ばかり、  
見歩くに、天人のよそほひしたる女、  
山の中よりいで来て、銀の金鉢を持ち  
て、水をくみ歩く。これを見て、船よ  
り下りて、「この山の名を何とか申  
す。」と問ふ。女、答へていはく、  
「これは、蓬萊の山なり。」と答ふ。  
これを聞くに、うれしきことかぎり  
なし。

その山、見るに、さらに登るべきや  
うなし。その山のそばひらをめぐれば、  
世の中になき花の木ども立てり。金、  
銀、瑠璃色の水、山より流れいでたり。  
それには、色々の玉の橋渡せり。その  
あたりに照り輝く木ども立てり。その  
中に、この取りてまうで来たりしは、  
いとわろかりしかども、のたまひしに  
違はましかばと、この花を折り  
てまうで来たるなり。

### 《言葉の意味》

金碗 金属製のお碗。

瑠璃 宝石の一種。つやのある、むらさきがかった紺色をしている。

銀・輝く 当時は「しろかね」「かかやく」と清音で読んだ。

### 《新しい漢字》

恐ろしい 尋ねる 斜面

これこそわたくしが探し求め  
ていた山だろうと思つて、（う  
れしくはあるのですが）やはり  
恐ろしく思われて、山の周囲を  
こぎ回らせて、二、三にちばか  
り、様子を見て回っていますと、  
天人の服装をした女性が、山の  
中から出てきて、銀のお碗を  
持つて、水をくんでいきます。  
これを見て、わたくしは船から  
下りて、「この山の名はなんと  
いうのですか。」と尋ねました。  
女性は答えて、「これは、蓬萊  
の山です。」と言いました。こ  
れを聞いて、わたくしはうれし  
くてたまりませんでした。

その山は、見ると、（険しく  
て）全く登りようがありません。  
その山の斜面のすそを回つてみ  
ると、この世には見られない花  
の木々が立っています。金・  
銀・瑠璃色の水が、山から流れ  
出てきます。その流れには、色  
さまざまの玉でできた橋が架  
かっています。その付近に、光  
輝く木々が立っています。その  
中で、ここに取つてまいりまし  
たのは、たいそう見劣りするも  
のでしたが、姫がおしゃつたも  
のと違ってはいけないだろ  
うと思ひ、この花の枝を折つて  
まいつたのです。

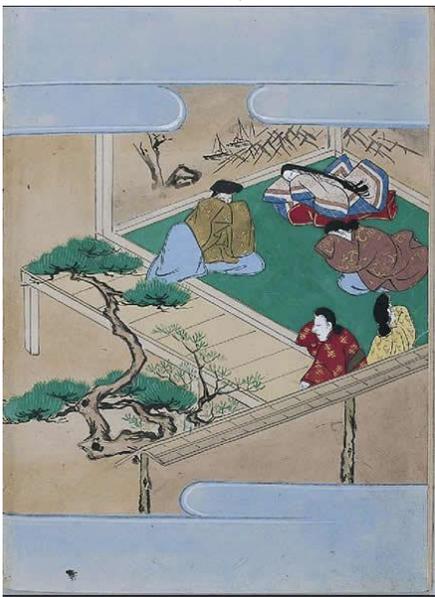
ところが、くらもちの皇子が得意げにこう語っているところへ、玉作りの匠たちが、押しかけている。千日余りも働かされながら、まだほうびがもらえない、どうにかしていただきたい、という匠の訴えで、皇子の策略はいっぺんに破れてしまうのである。

ほかの四人も、あるいは大金を使い果たし、あるいは危険を冒して大けがをするなど、目ざす品物を手に入れることができず、求婚はすべて失敗に終わった。

このように人々の心を奪うほどの美しさを備えたかぐや姫を、時の帝は、ぜひ宮中に迎え入れたいと、たびたびお召しになったが、かぐや姫はそれにも応じようとしない。

そうしているうちに、さらに三年の月日がたった。その春の初めから、かぐや姫は、月を見ては嘆き悲しむようになる。秋になってその嘆きがいつそう大きくなるのを見かねた翁が、わけを尋ねると、

「わたしは、実は月の都の者です。わけあって人間世界に参りましたが、八月十五夜には、月に帰らなければなりません。」と、涙ながらに打ち明けた。



かぐや姫、月への帰還が近いことを知り、嘆き悲しみ、翁・おうなと共に涙する。

いよいよ中秋の名月の夜、帝は、二千人の兵士を遣わして翁の家を守るようお命じになった。しかし、月の都の人々に対しては、兵士たちも全く無力であった。かぐや姫は、翁には着ていた衣を、帝には天人の持参した不死の薬を、それぞれ手紙をそえて残し、人々の悲しみをあとに天に昇って行ってしまった。

## 《言葉の意味》

中秋 陰暦の八月十五日。



天に昇るかぐや姫

## 《新しい漢字》

見劣り おと

迎え入れる むか

召す め

嘆き悲しむ なげ

昇る のぼ

帝は、かぐや姫から不死の薬を贈られていたが、かぐや姫のいないこの世にいつまでもとどまる気がしない。そこで、

「どの山が天に近いか。」

とお尋ねになると、ある人が、駿河の国にある山が、都からも近く天にも近いとお返事申し上げたので、その山に使者をお遣わしになった。



かぐや姫の手紙と不死の薬が帝に贈られる

おんふみ 御文、不死の薬の壺並べて、火を

つけて燃やすべきよし仰せたまふ。

そのよしうけたまはりて、士どもあ

また具して山へ登りけるよりなむ。

その山を「ふじの山」とは名づけける。

その煙、いまだ雲の中へ立ち上るとぞ、言ひ伝へたる。

## 駿河の国

今の静岡県の一部。昔の国名。

（帝は）お手紙と、不死の薬の壺を並べて、火をつけて燃やすようにと、御命令になった、その旨を承って、（使者が）兵士たちをたくさん引き連れて山に登ったということから、その山を（「土に富む山」、つまり「ふじの山」と名づけたのである。

その煙は、いまだに雲の中へ立ち上っていると、言い伝えられる。

## 竹取物語

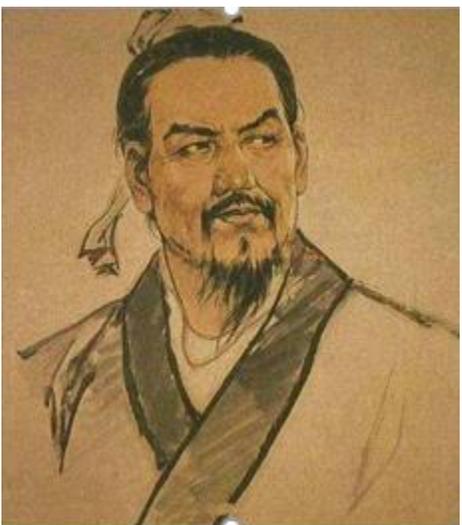
現在伝わっている日本の物語の中では最も古いものだといわれている。民間に語りつがれていた伝説をもとにして、平安時代の初めごろ作られたと考えられるが、作者はわからない。竹の中から生まれた美しいかぐや姫が、月の世界に帰っていくという幻想的な物語であるが、その中に、人々の喜びや悲しみ、当時の生活などが、生き生きと描かれている。

# 今に生きる言葉

わたしたちが日常使っている言葉には、中国の古典に由来するものがたくさんある。中国から多くの古典を受け入れたわたしたちの祖先は、そこから名句・名言を抜き出し、座右の銘にしたり、話や文章にいかしたりしてきた。それらの言葉の中には、長い年月をこえ、今もわたしたちの生活の中に生き続けているものがある。

中国の古典に由来する言葉には、歴史的な事実や、たとえばどのエピソードを背景にもっているものがある。それらを故事成語という。例えば、「矛盾」 「推敲すいこう」 「五十歩百歩」 「背水の陣じん」 「蛇足」などという言葉がそれである。

「矛盾」という言葉は、今から二千年以上も前に「韓非子」という書物に書かれた物語がもとになっている。



かんぴし

## 《言葉の意味》

### 座右の銘

常に心に留めて、いましめ・はげましにする言葉

### エピソード

ある事柄について、そのことを具体的に示す、ちよつとした出来事やそれを伝える話。

### 「韓非子」

法律により人民を治めようとする思想を展開して、韓非およびその一派の著作を収めたもの。

## 《新しい漢字》

### 銘メイ

### 矛盾ムジユン

楚人<sup>そひと</sup>に盾と矛とを鬻<sup>ひさ</sup>ぐ者あり。  
これをほめていはく<sup>(ウ)</sup>、「わが盾の堅きこと、よく陷<sup>(トオ)</sup>すものなきなり。」と。

また、その矛をほめていはく<sup>(ウ)</sup>、「わが矛の利なること、物において陷<sup>(トオ)</sup>さざるなきなり。」と。  
ある人いはく<sup>(トオ)</sup>、「子の矛をもつて、子の盾を陷<sup>(トオ)</sup>さばいかん。」と。  
とその人応<sup>(ウ)</sup>ふることあたはざるなり。

## 矛盾

楚の国の人で盾と矛を売る者がいた。  
(その人が) 盾をほめて、「わたしの盾の堅いことといったら、(これを) 突き通せるものはない。」と言った。  
また、矛をほめて、「わたしの矛が鋭いことといったら、どんなものでも突き通せないものはない。」と言った。  
(そこで) ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通すとどうなるのかね。」と尋ねた。  
その人は答えることができなかったのである。

楚人<sup>そひと</sup>、有<sup>あり</sup>下鬻<sup>ひさぐ</sup>二盾<sup>たてト</sup>与<sup>とヲ</sup>矛<sup>ほこ</sup>者<sup>もの</sup>上<sup>上</sup>。

誉<sup>ほメテ</sup>之<sup>これヲ</sup>曰<sup>いハク</sup>、

「吾<sup>わガ</sup>盾<sup>たて</sup>之<sup>の</sup>堅<sup>かたキコト</sup>、莫<sup>ナキ</sup>能<sup>ナ</sup>陷<sup>とほスヲ</sup>也<sup>なりト</sup>。」

又<sup>また</sup>、誉<sup>ほメテ</sup>其<sup>そノ</sup>矛<sup>ほヲ</sup>曰<sup>いハク</sup>、

「吾<sup>わガ</sup>矛<sup>ほこ</sup>之<sup>の</sup>利<sup>リナルコト</sup>、於<sup>おイテ</sup>物<sup>ものニ</sup>無<sup>ナキ</sup>不<sup>ズルコト</sup>陷<sup>とほサ</sup>也<sup>なりト</sup>。」

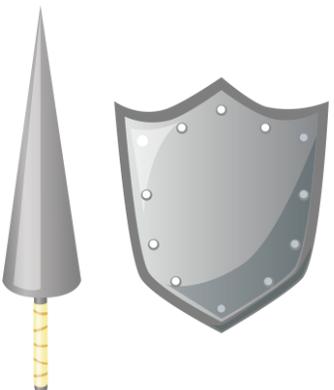
或<sup>あるひと</sup>曰<sup>いハク</sup>、

「以<sup>もつテ</sup>子<sup>し</sup>之<sup>の</sup>矛<sup>ほヲ</sup>、陷<sup>とほサバ</sup>子<sup>し</sup>之<sup>の</sup>盾<sup>たてヲ</sup>、如<sup>い</sup>何<sup>かんト</sup>。」

其<sup>そノ</sup>人<sup>ひと</sup>弗<sup>ズル</sup>能<sup>あたハ</sup>応<sup>こたハル</sup>也<sup>なり</sup>。

### 《新しい漢字》

堅い <sup>かた</sup>  
鋭い <sup>すんど</sup>





## 漢字の学習

(1) あなたの座右の銘はなんですか。

(2) 先生の話は矛盾している。。

(3) わたしの盾は堅い。

(4) わたしの矛は鋭い。

(5) 故事成語

(6) 蛇足

(7) 背水の陣<sub>じん</sub>。

## 故事成語、矛盾についてまとめましょう。

わたしたちが日常使っている言葉には、中国の古典に由来するものがたくさんある。中国から多くの古典を受け入れたわたしたちの祖先は、そこから名句・名言を抜き出し、座右の銘にしたり、話や文章にいかしたりしてきた。それらの言葉の中には、長い年月をこえ、今もわたしたちの生活の中に生き続けているものがある。

中国の古典に由来する言葉には、歴史的な事実や、たとえ話などのエピソードを背景にもっているものがある。それらを故事成語という。例えば、「矛盾」<sup>すいこう</sup>「推敲」<sup>すいこう</sup>「五十歩百歩」<sup>すいこう</sup>「背水の陣」<sup>じん</sup>「蛇足」などという言葉がそれである。

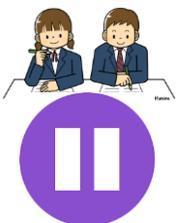
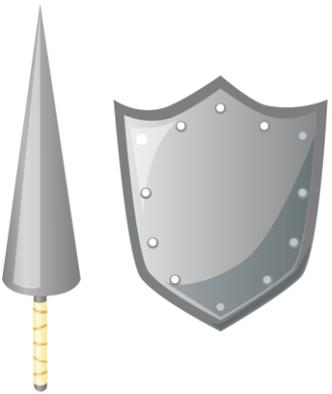
「矛盾」という言葉は、今から二千年以上も前に「韓非子」という書物に書かれた物語がもとになっている。

1. 故事成語についてまとめなさい。( ) に合う言葉を選ばなさい。

「矛盾」など、( ) の古典に由来する言葉で、( ) や、たとえ話などのエピソードを背景にもっているものを故事成語という。

2. 「矛盾」の由来を書きなさい。( ) に合う言葉を選ばなさい。

( ) をほめて、「突き通せるものはない。」と言ったことと、( ) をほめて、「突き通せないものはない。」と言ったことのつじつまが合わなくなったという物語が由来。



## 故事成語、矛盾についてまとめましょう。

わたしたちが日常使っている言葉には、中国の古典に由来するものがたくさんある。中国から多くの古典を受け入れたわたしたちの祖先は、そこから名句・名言を抜き出し、座右の銘にしたり、話や文章にいかしたりしてきた。それらの言葉の中には、長い年月をこえ、今もわたしたちの生活の中に生き続けているものがある。

中国の古典に由来する言葉には、歴史的な事実や、たとえば話などのエピソードを背景にもっているものがある。それらを故事成語という。例えば、「矛盾」「推敲すいこう」「五十歩百歩」「背水の陣じん」「蛇足」などという言葉がそれである。

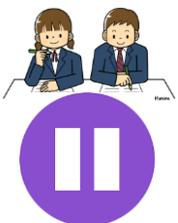
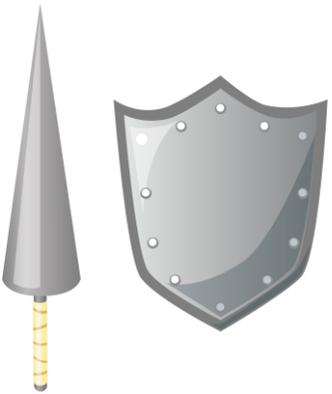
「矛盾」という言葉は、今から二千年以上も前に「韓非子かんひし」という書物に書かれた物語がもとになっている。

1. 故事成語についてまとめなさい。( ) に合う言葉を選ばなさい。

「矛盾」など、( **中国** ) の古典に由来する言葉で、( **歴史的な事実** ) や、たとえ話などのエピソードを背景にもっているものを故事成語という。

2. 「矛盾」の由来を書きなさい。( ) に合う言葉を選ばなさい。

( **盾** ) をほめて、「突き通せるものはない。」と言ったことと、( **矛** ) をほめて、「突き通せないものはない。」と言ったことをつじつまが合わなくなったという物語が由来。



## 問題に答えましょう。

楚人<sup>そひと</sup>に盾と矛とを鬻<sup>ひさ</sup>ぐ者あり。

これをほめていはく、<sup>(ウ)</sup>「わが盾の堅きこと、よく陥<sup>(トオ)</sup>すものなきなり。」と。

またその矛をほめていはく、<sup>(ウ)</sup>「わが矛の利なること、<sup>(トオ)</sup>物において陥<sup>(トオ)</sup>さざるなきなり。」と。

ある人いはく、<sup>(2)</sup>「子の矛をもつて、<sup>(モツ)</sup>子の盾を陥<sup>(トオ)</sup>さばいかん。」と。  
<sup>(4)</sup>その人<sup>(ウ)</sup>応ふることあたはざるなり。

### 【現代語訳】

楚<sup>そ</sup>の国の人で盾と矛とを売る者がいた。

(その人が) 盾をほめて、「わたしの盾の堅いことといったら、(これを) 突き通せるものはない。」と言った。

また、矛をほめて、「わたしの矛が鋭いことといったら、どんなものでも突き通せないものはない。」と言った。

(そこで) ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通すとどうなるのかね。」と尋ねた。

その人は答えることができなかつたのである。

(1) 一線①「利なること」とはどういう意味ですか。現代語訳から四字で書きぬきなさい。


(2) 一線②「子」とはどういう意味ですか。現代語訳から三字で書きぬきなさい。


(3) 一線③「陥さばいかん」の意味を現代語訳から書きなさい。

(4) 一線④「応ふることあたはざるなり」とありますが、答えられなかつた理由はなんですか。



## 問題に答えましょう。

楚人そひとに盾と矛とを鬻ひさぐ者あり。

これをほめていはく、<sup>(ウ)</sup>「わが盾の堅きこと、よく陥とほすものなきなり。」と。

またその矛をほめていはく、<sup>(ウ)</sup>「わが矛の利なること、<sup>①</sup>物において陥とほさざるなきなり。」と。

ある人いはく、<sup>②</sup>「子シの矛をもつて、子シの盾を陥とほさばいかん。」と。  
その人④応オウふることあたはざるなり。

### 【現代語訳】

楚その国の人で盾と矛とを売る者がいた。

(その人が) 盾をほめて、「わたしの盾の堅いことといったら、(これを) 突き通せるものはない。」と言った。

また、矛をほめて、「わたしの矛が鋭いことといったら、どんなものでも突き通せないものはない。」と言った。

(そこで) ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通すとどうなるのかね。」と尋ねた。

その人は答えることができなかつたのである。

(1) 一線①「利なること」とはどういう意味ですか。現代語訳から四字で書きぬきなさい。

堅
い
こ
と

(2) 一線②「子」とはどういう意味ですか。現代語訳から三字で書きぬきなさい。

あ
な
た

(3) 一線③「陥さばいかん」の意味を現代語訳から書きなさい。

**突き通すとどうなるのかね**

(4) 一線④「応ふることあたはざるなり」とありますが、答えられなかつた理由はなんですか。

**話のつじつまが合わないことに気が付いたから**



## 宿題

次回の授業までにやる勉強です。

### 1. 音読

「いろは歌」 「蓬萊の玉の枝」を読みましょう。

### 2. 「今に生きる言葉」を読みましょう。

3. 故事成語 「推敲」すいこう 「五十歩百歩」 「背水の陣」じん  
「蛇足」のうち一つ選び、どのような物語がもとになっ  
ているか調べましょう。



## お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
  2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って  
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 [Akiko@JPNCClass.com](mailto:Akiko@JPNCClass.com) です。
  - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から  
ダウンロードや印刷ができます。



# JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

# 中学

# 国語 一年

# 年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月	
		発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、 メモをもとにスピーチ をしよう。	野原はうたう 好きな詩を、登場する 生き物の気持ちになっ て朗読しよう。	話す／聞く 一年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習 を進めよう。
文章の推敲と原稿用紙の 使い方 推敲のポイントと原稿 用紙のうえでの推敲の 仕方を知ろう。原稿用 紙の決まりを確かめよ う。	情報を文章にまとめよう 自分の身の回りのこと について、情報を集め、 文章にまとめよう。	発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、 スピーチメモを書こう。	野原はうたう 自分の好きな生き物を 選んで、詩を作ろう。	書く 新聞記事 記事の要約をし、記事 に対する自分の意見 <sup>コメント</sup> や感想を書こう。
光と風からもらった贈り 物 筆者が「高原」のどん なところに、言葉の豊 かさを感じているかを とらえよう。	クジラたちの声 クジラの情報伝達に関 する二つの問いをおさ え、音の役割、海中で の情報伝達に音が最適 である理由をつかもう。	ちよつと立ち止まって 各図の説明を通して、 ものの見方について、 筆者が述べていること をとらえよう。	野原はうたう 作者が生き物の姿にど んな思いを感じている かを、読み取ろう。 にじの見える橋 少年の行動や心情に着 目し、にじを見る前と あとの気持ちの変化を とらえよう。	読む 新聞記事 新聞記事を読もう。
混同しやすい漢字 形が似ていたり音が同 じであったりする漢字 を知り、間違えて使わ ないように気をつけよ う。	言葉の単位 文節や単語に区切る方 法を知ろう。	漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と 表すものを覚えよう。	話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の 違いをおさえよう。	言葉



	3月	2月	1月	
				話す／聞く
		心に残る思いで読み手の興味を引くように、発表しよう。		
	言葉を調べよう 言葉についての課題を調べ、資料にまとめる。	心に残る思いで今までの経験で、自分が成長したと思えることや、変わったと思うことを思い出して、文章にまとめよう。	江戸からのメッセージ 江戸の知恵を今の時代に生かせることは何か考え、それをまとめよう。	書く
	胸の底の人と言葉たち 人や言葉との出会いを読み取り、筆者がわたしたちに願うことは何かを考えよう。	少年の日の思い出 登場人物の心情の移り変わりをとらえ、生き方を考えよう。	江戸からのメッセージ リサイクルを徹底した江戸っ子の生活と、そこから導かれた筆者の主張をつかもう。	読む
〈一年生の漢字〉 一年生で習った漢字の復習をしよう。		漢字の成り立ち 漢字の成り立ちをおさえ、成り立ちで意味や読みを類推できることを知ろう。	辞典を活用しよう 国語辞典、漢和辞典の使い方を知り、実際に様々な言葉を調べよう。	言葉
		指示する語句と接続する語句 指示する語句と接続する語句の種類や用法を理解しよう。		